

## ファイナルレポート

第 23 回 国際コンポーネント・システム・アプリケーション専門見本市

2008 年 11 月 11 日～14 日

ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場

2008 年 11 月 14 日

～『グリーン・エレクトロニクス』の実現へ向けて、業界全体から大きな希望～

### Summary

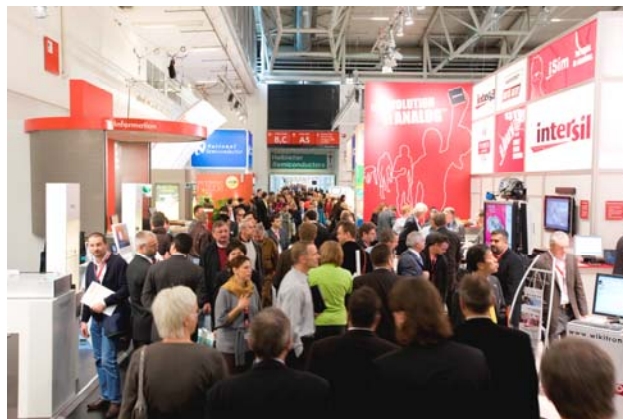
- およそ 2,800 社が出展
- 一約半数はドイツ国外からの出展
- 来場者数はおよそ 73,000 人  
一中・東欧諸国、台湾、ブラジル、南アフリカ、ロシアからの来場者が増加
- メインテーマは『グリーン・エレクトロニクス』
- 会期中のイベント、CEO Round Table  
electronica automotive conference なども大盛況に。



### Facts & Data

会 期	2008 年 11 月 11 日(火)～14 日(金) 11 日(火)～12 日(水)午前 9 時～午後 6 時 13 日(木)午前 9 時～午後 7 時 / 14 日(金)午前 9 時～午後 5 時
会 場	ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場
主 催	ミュンヘン見本市会社 (Messe München GmbH)
規 模	全 14 ホール 約 152,000 m <sup>2</sup>
出 展 企 業	約 2,800 社 (2006 年:47 ヶ国から 2,961 社)
来 場 者 総 数	約 73,000 人 (2006 年:134 ヶ国から 77,748 人)
専 門 分 野	エレクトロニクス、電子工学
主 な 出 展 品	半導体、エンベデッドシステム、ディスプレイ、マイクロナノ・システム (MEMS、マイクロ製造)、センサー技術、検査・測定技術、電子設計 (ED/EDA)、受動部品、電気機械技術/システム/周辺機器 (スイッチ & キーボード、配線部品/システム、ケーシング技術)、パワーサプライ、プリント基板・その他回路基材、受託製造サービス (EMS)、アセンブリ/サブシステム、オートモーティブ・エレクトロニクス、ワイヤレス技術、情報収集システム  業界:産業電子機器、オートモーティブ、鉄道技術電子機器、通信 (有線)、無線、家電・娯楽製品、その他民需向け電子機器、事務・情報処理機器、医療電子技術、航空・宇宙・軍事向け電子機器
出展日本企業	およそ 120 社 (現地法人・代理店出展含む) リストは 3 ページ目をご参照下さい
専 用 U R L	<a href="http://www.electronica.de">www.electronica.de</a> (英語 / ドイツ語)

11月11日から14日まで、ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場で **electronica 2008** が開催され、エレクトロニクス業界全体へ積極的な姿勢を発信した。およそ 2,800 の出展社のうち、58%(\*)はドイツ国外からで、今回も国際色豊かな見本市となった。また、世界各国からおよそ 73,000 人の業界関係者が来場した。中・東欧諸国、台湾、ブラジル、南アフリカ、ロシアからの来場者が前回に比べて増加した一方、アメリカ、イギリス、フランス、イスラエルからの来場者が減少した。この要因は、現在の経済状況の悪化により、企業が派遣する人数を減らしたためと考えられる。



今回も来場者、出展社ともに、**electronica 2008** の効果に対する満足度は高かった。特に、出展製品やサービスの範囲が業界全体を網羅していることに対する評価は高く、**electronica** がエレクトロニクス業界において最も重要な見本市の一つであることを証明した。また、業界を代表する企業やグローバルに活躍する企業の出展が多いことも、高い評価につながった。

予想通り、会場では最近の経済情勢についての議論が多く交わされた。出展社、来場者ともに経済の低迷を予測しているが、多くはこの困難な局面に自信を持って立ち向かい、すでに社内ではしかるべき対策を取っている。

ミュンヘン見本市会社の常務取締役クラウス・デイトリッヒは、「このような経済情勢下においても、**electronica** が非常に安定して開催されたこと、また結果が出展社、来場者にとって非常に満足のいくものになったことを誇らしく思う。これにより、業界のワールドワイドなミーティング・ポイントとして、**electronica** が重要な位置にいることを示していると実感した」と話している。

### メイン・テーマ：『グリーン・エレクトロニクス』

今回最も注目を集めたのは、「グリーン・エレクトロニクス」とカー・エレクトロニクス。これまで最も「グリーン」な **electronica** となり、全ホールにおいて電子機器のエネルギー効率の向上や、アプリケーションにおける省電力について技術やソリューション、また発電用電子部品や資源保護システムなどが紹介された。



初日に開催された CEO Round Table でも、環境保護に焦点が当てられた。Tyco Electronics 社の前社長 Jürgen Gromer 氏の司会で、Infineon Technologies 社、Freescale Semiconductor 社、STMicroelectronics 社、National Semiconductor 社及び Osram Opto Semiconductors 社の CEO が、「半導体業界の気候保護への貢献」というテーマで議論を交わした。すべての講演者が、特にインテリジェント半導体の使用によって、エレクトロニクス・システムの効率を著しく向上させることができると結論付けた。半導体業界は、少なからず業界の今後の経済を左右するということもあり、このゴールの達成を今後数年間における最も重要な役割の一つとみなしている。

近年の気候変動についての議論で最も重要な側面の一つはカーエレクトロニクスで、車両から排出される CO2 削減に向けての技術が注目されている。**electronics automotive conference** では、先進的なカーエレクトロニクスの動向などが話し合われ、23 カ国から 250 人が参加した。



## **ディスプレイ & e-Signage(電子掲示板システム)**

急成長を続ける電子ディスプレイ用アプリケーションについての特別なフォーラム「e-Signage フォーラム」が、今回初めて electronica に登場した。商品の展示及びプレゼンテーションエリアにおいて、例えばスクリーンの対角線 2.75 メートルの、世界最大の液晶ディスプレイなど、最新技術や市場動向が紹介された。ディスプレイエリアの展示及び e-Signage フォーラムは大変好評で、多くの来場者を集めた。



次回 electronica 2010 は、2010 年 11 月 9 日～12 日に新ミュンヘン国際見本市会場で開催される。

(\*) 日系企業でも、ドイツ支社からの登録であれば、ドイツ企業としてカウントされます

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ[www.electronica.de](http://www.electronica.de)まで。

## **electronica 2008 日系出展社(50 音順)**

愛知製鋼(株)、旭化成エレクトロニクス(株)、旭硝子(株)、アナセム(株)、(株)アルファ、アルファ・エレクトロニクス(株)、アルプス電気(株)、アンリツ(株)、(株)五十嵐電機製作所、石塚電子(株)、伊藤忠商事(株)、内橋エステック(株)、ウチヤ・サーモスタット(株)、エス・エム・アイ(株)、エスペック(株)、NEC エレクトロニクス(株)、NEC トーキン(株)、エプソントヨコム(株)、FDK(株)、エルナー(株)、岡谷電機産業(株)、(株)沖センサデバイス、沖電線(株)、沖プリントドサーキット(株)、(株)オサダ、(株)小野測器、オムロン(株)、カイセ(株)、カシオ計算機(株)、釜屋電機(株)、菊水電子工業(株)、北川工業(株)、九州電通(株)、京セミ(株)、京セラ(株)、グラフテック(株)、グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会、ケージーエス(株)、コア(株)、コーセル(株)、コーデンシ(株)、(株)サーキットデザイン、栄通信工業(株)、サガミエレク(株)、(株)サキコーポレーション、三洋電機(株)、シチズン・システムズ(株)、シチズン電子(株)、シチズン時計(株)、シャープ(株)、新光電子(株)、新電元工業(株)、進工業(株)、スター精密(株)、スタンレー電気(株)、住友スリーエム(株)、セイコーインスツル(株)、セイコーエプソン(株)、星和電機(株)、双信電機(株)、(株)タイコーデバイステクノ、(株)大真空、太陽誘電(株)、タカヤ(株)、竹内工業(株)、立山科学工業(株)、(株)ディ・エム・シー、TDK(株)、TDK ラムダ(株)、(株)電波新聞社、東京電波(株)、東光(株)、(株)東芝セミコンダクター社、(株)東北クリスタル、トレックス・セミコンダクター(株)、(株)ニコン、ニチコン(株)、(株)ニッポンインダストリーズ、日本セラミック(株)、(株)ニプロン、日本開閉器工業(株)、日本電気(株)、日本電産コパル電子(株)、日本電産サンキョー(株)、日本電波工業(株)、日本貿易振興機構、(株)ノリタケカンパニーリミテド、パナソニック(株)、パナソニック電工(株)、浜松ホトニクス(株)、ピコ(株)、ビシエイジャパン(株)、日立エーアイシー(株)、日立化成工業(株)、(株)日立製作所、ヒロセ電機(株)、フィガロ技研(株)、(株)フジクラ、富士高分子工業(株)、富士通コンポーネント(株)、富士通マイクロエレクトロニクス(株)、双葉電子工業(株)、宝商(株)、北陸電気工業(株)、ホシデン(株)、本多通信工業(株)、(株)MARUWA、(株)ミツトヨ、三菱電機(株)、ミツミ電機(株)、(株)村田製作所、(有)メガテック、山一電機(株)、(株)ヨコオ、(株)リコー、(株)ルネサステクノロジ、ルビコン(株)、ローム(株)など

**資料請求、出展申込み、入場券購入、各種お問い合わせ先:**

**メッセ・ミュンヘン・インターナショナル 日本代表部**

〒102-0075 東京都千代田区三番町 2-4 三番町 KSビル 5F 在日ドイツ商工会議所内

Tel.: 03-5276-3508 Fax: 03-5276-3509 E-mail: [info@messe-muenchen.jp](mailto:info@messe-muenchen.jp)

URL: [www.messe-muenchen.jp](http://www.messe-muenchen.jp) (日本語) [www.messe-muenchen.com](http://www.messe-muenchen.com) (英語/ドイツ語)